岩手の生涯学習物語（展開期編）

第十四話　「岩手県放送利用グループ連絡会」の巻

元岩手県教育委員会事務局社会教育課長　高　橋　　寛

今回も前回の「いわてマナビィ会」に続き、民間学習グループ「岩手県放送利用グループ連絡会」（通称「岩放連」昭和 56 年発足、平成 15 年解散）のお話です。

【その誕生】

昭和 56 年度岩手に全く新しい学習グループが誕生しました。「岩手県放送利用グループ連絡会」です。このグループは盛岡市中央公民館の「明日を築くパイオニア大学」（ボランティア養成講座）放送利用活動部修了生が中心となり、県内社会教育関係者や放送事業者と連携し、放送利用をもっと広げようと昭和 56 年 3 月 26 日、16 市町村 35 名の会員のもとに発足したものです。

【その背景】

これには次のような背景がありました。

第一は国の動向です。昭和 28 年に始まったテレビ放送は急速に普及し、昭和 44 年社会教育審議会は放送を積極的に教育に利用すべき旨の答申を行い、昭和 46 年には社会教育における放送利用の促進について社会教育局長通知が発せられたこと。

第二はこのような国の動向に即し、県教委は「放送利用研究集会」等を開催し放送利用の促進と放送利用自主グループの育成を図り、昭和 56 年度には 105 の実践地区と 19 の自主グループが活動していたこと。

第三はその当時 NHK では「シルクロード」民間教育放送協会（民教協）で「親の目子の目」など良質な教育教養番組が放映され、市民が放送に大きな関心を寄せていたこと。

県教委でも放送事業者の協力を得て「ママの育児日記」や「おやじの出番」「わんぱく広場」など教育番組を放映し、その利用促進を図っていたこと。

第四は VTR が普及し教材活用が容易になったこと。これらの要因が相互に好影響を及ぼし市民の放送利用の気運が高まっておりました。

学習会、秋田県雄物川町婦人部と

【その活動】

このような背景のもとに誕生した「岩放連」は放送利用による生涯学習の推進のため積極的な活動を開始しました。

・公開学習会の開催　盛岡市、三陸町、滝沢村、山形村等で行われた公開学習会は関係者に大きな示唆を与えるものでした。この経験は後日放送利用を希望する市町村と放送利用学習会の共同企画運営にまで発展しました。

日本視聴覚教育賞受賞

・放送事業者との懇談会　NHK、IBC、TVI と番組制作や放送利用に関しての協議はテレビ局と共催の「ママ育のつどい」等に生かされ、また 4 回に及ぶ「テレビ視聴に関するアンケート」も関係者の注目を浴びました。

・各種研修会への参加と協力　県教委「放送利用研究集会」をはじめ、東北レベル全国レベルの研修会へ積極的に参加するとともに、司会助言等の運営協力、さらには東北大会や全国大会発表の依頼を受けるなど、会員の活動は大きな広がりを見せていきました。

・親睦活動の充実　中でも広報「DenPal」の発行、会員の市町村を訪ねての交流や手作り料理の「ハンドメイクパーティ」は会員はじめ関係者に大好評、さらにグループの愛唱歌「我らが仲間デンパル」も作成されました。

【その結果】

このような活動はいつしか国の認めるところとなり、平成 6 年 12 月東京国立教育会館で**「日本視聴覚教育賞」受賞**の栄誉に輝いたのです。誠に誇らしいことでした。生涯学習推進の新たな方法としての放送利用は岩手の生涯学習の推進とともに大きく花開きました。関係者の熱意、創意工夫、そして仲間意識を心から讃えるものです。